

<h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 平成29年4月発行</p>	<h2 style="font-size: 1.5em;">図画工作科・美術科 芸術（美術・工芸） 第43号</h2>			
	<b>対象校種</b>	幼稚園	小学校	中学校
		高等学校	特別支援学校	

## 〔共通事項〕を視点とした 表現及び鑑賞の指導法の工夫

学習指導要領において、〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な資質・能力として示されている。しかし、このことが補足的に捉えられ具体的な指導につながっていない状況が見られる。そこで、〔共通事項〕を視点とした指導法の工夫について、具体的な事例を通して紹介する。

### 1 〔共通事項〕について

小学校図画工作科及び中学校美術科の学習指導要領を基に、〔共通事項〕をまとめると図1のようになる。

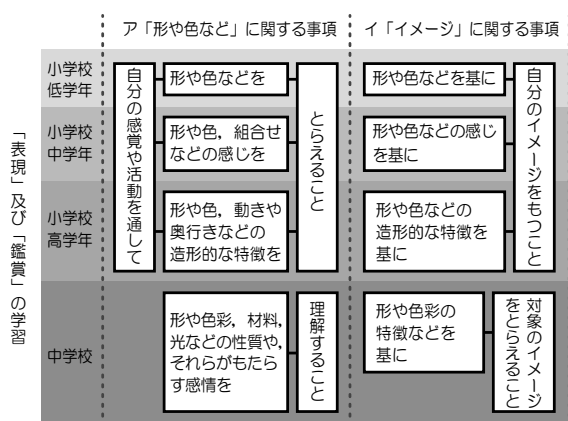


図1 〔共通事項〕の内容

全ての学年において、ア「形や色など」に関する事項、イ「イメージ」に関する事項が示されている。〔共通事項〕の「共通」とは、「A表現」と「B鑑賞」の2領域及びその項目や事項の全てに共通するという意味である。このことから、〔共通事項〕の指導に際しては、表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付けることが求められる。

### 2 〔共通事項〕の視点をもつ

例えば、糸を使って粘土を切る場面で、形について視点を示さず活動させた場合、児童生徒は切断面に現れる様々な形の面白さに気付かず、切るという作業の力加減や要領だけに執着するだろう。また、作品を鑑賞する場面において「どう感じますか」とのみ質問した場合、児童生徒は作品の形や色、イメージを視点にできず漠然と感想を捉える程度に終始し、鑑賞は難しいという印象が残るだろう。

これでは、創造的な技能や直感的見方の経験とはなるが、相関的で効果的な学習成果は得られない。表現や鑑賞の各題材について、学習のねらいや児童生徒の学習活動などを〔共通事項〕の視点で見直すとともに、児童生徒の具体的な活動を考察し、形や色、材料などの性質などに意識を向けて考えさせたり、対象のイメージを捉えさせたりするなど指導法を工夫することが重要である。

### 3 【共通事項】アの具体的内容

実際に指導を行う際に、取り扱うべき【共通事項】のア「形や色など」に関する事項の具体的内容について、学習指導要領解説を基にまとめたものが図2である。発達の段階や既習事項を踏まえた感覚や活動、具体的内容になっており、これらを常に考慮しながら一貫して指導する必要があることが分かる。

### 4 【共通事項】イの具体的内容

学習指導要領解説において、イ「自分のイメージをもつ」について、「社会や大人のもつ知識や習慣を受動的に理解させるのではなく、自分の感覚や活動と一体であるようなイメージをもつこと」と示されている。イメージについては、形や色などと異なり画一的な枠組みがなく、自分の気持ちや経験と密接に関係する曖昧なものでもある。そこで、児童生徒自身にこれらをより明確に捉えさせるために、指導の工夫として言語活動を充実させる必要がある。

### 5 言語活動の充実と【共通事項】

「言語活動の充実に関する指導事例集」では、「指導計画の作成に当たっては、形や色、イメージなどの【共通事項】を視点

に、図画工作科・美術科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが重要である」と示されている。具体的には「形や色、材料の感情効果やイメージなどをとらえながら、アイデアスケッチ等により発想や構想を練ったり、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして幅広く味わったりするなどの学習活動を充実すること」が示されている。

このように【共通事項】を視点とし、アイデアスケッチ等の言語活動を行うことでそれまでは漠然と見ていたことが整理され美しさの要素が明確になる。また、他者と意見を交流する場面では分析的に情報を共有できるようになるため、自分一人では気付かなかった価値などに気付くなどより深い学びが期待できる。

※1 芸術系教科・科目においては、言語を用いた言語活動を行うほか、言語以外の方法（音や形、アイデアスケッチ、色など）を用いた言語活動を行っている。

### 6 【共通事項】を視点とした指導法の工夫の具体例

思考ツールを活用し、形や色、イメージなどを捉えさせながら、言語活動を充実させた表現及び鑑賞の展開例を示す（鹿児島市立田上小学校の林智美教諭の実践を基に作成）。

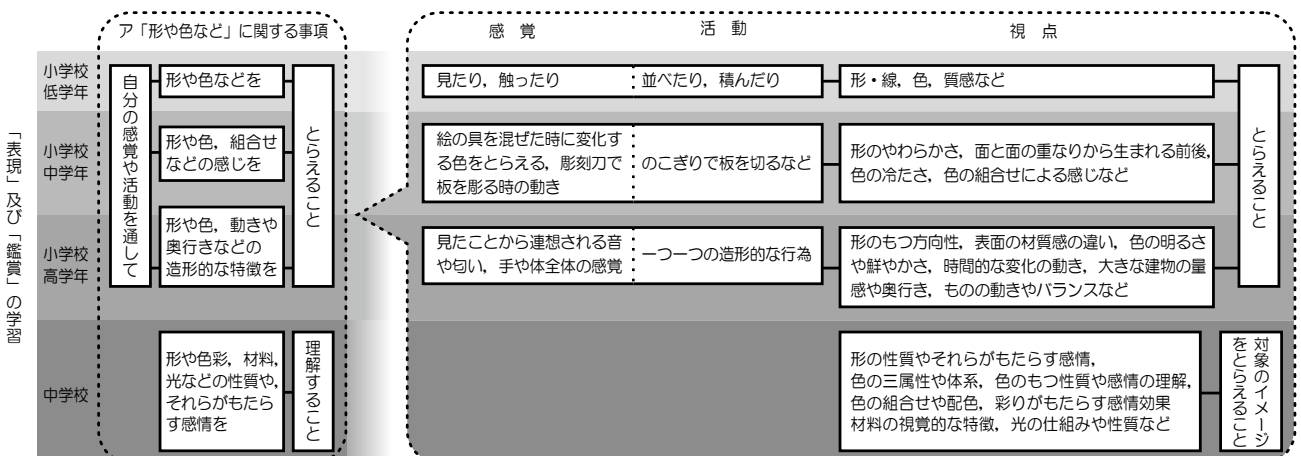


図2 【共通事項】アの具体的内容

(1) 表現及び鑑賞の展開例

ア 対象 小学校中学年（全7時間）  
 イ 題材名「うれしかったあの気持ち（絵に表す）」  
 ウ 目標  
 うれしかったことを、その時の気持ちが伝わるように、形や色、イメージの表し方を工夫して絵に表す。

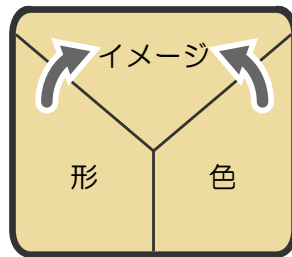
エ 指導計画

過程	主な学習活動【評価規準】
思いをもつ (1時間)	1 作品例を見て、作者がその時、何を感じ、どんな思いを表したかったかを話し合う。 2 学習のめあてを捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         うれしかったことを、その時の気持ちが伝わるように表し方を工夫して絵に表そう。                     </div> 3 作品例を見て、伝えなかった気持ちについて「Yチャート」を使って話し合い、気付いたことを生かして、自分の表したいことのアイデアスケッチをする。 【造形への関心・意欲・態度】
思いを ふくらます (1時間)	4 伝えたいその時の気持ちや感じを、見る人に伝わるようにするためにどんな工夫があるかを話し合う。 5 自分が表したい時のアイデアスケッチを基に「トライアングルチャート、ダーツ図」を使って、表し方の工夫について構想を練る。 【発想や構想の能力】
思いを 表現する ・ 自他の よさに 気付く (4.5時間)	6 自分のつくった「トライアングルチャート、ダーツ図」を使って、その時の気持ちが伝わるように、表し方を考えて絵に表す。 7 表現の途中で互いの作品を見せ合い伝え合いながら製作を行い、自分の表現に生かす。 【造形への関心・意欲・態度】 【創造的な技能】
新たな 思いを もつ (0.5時間)	8 作品紹介カードやプレゼンカード（「Yチャート」入り）を書き、互いの工夫やよさを話し合う。 【鑑賞の能力】

※ 下線部は言語活動。

(2) 思考ツールの活用

ア 「Yチャート」 (主に鑑賞活動用)



鑑賞したものについて観点ごとに分析して、言葉や文、図やアイ

デアスケッチの形で記入する（自分なりの考えは鉛筆で、話し合い後に気付いたことは青鉛筆で記入）。構造がシンプルなため、短時間でのメモや相手への提示に適している。

本題材では、鑑賞での話し合いや学習の振り返り時に、ホワイトボードやワークシートに示したものを活用させている。また、作品の完成後は写真1

のように作品紹介カードとして掲示している。一連の学習活動で繰り返

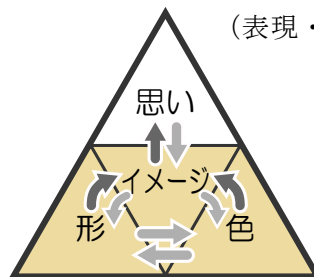


写真1 掲示された作品と作品紹介カード

ることで、「鑑賞 → Yチャート = 形、色、イメージ」という概念が形成され、日常や暮らしの中でも【共通事項】の資質や能力が発揮されるようになる。

イ 「トライアングルチャート」

(表現・鑑賞活動用)



Yチャートに含まれる【共通事項】の内容（形と色を捉え自分

※ 黄色部分が【共通事項】の観点

のイメージをもつ)に加え, それらの表現の工夫が作者の思いにつながっていることを示している。本題材では, アイデアスケッチを基に, 表し方の工夫について構想を練る段階から絵に表す段階を中心に活用させている(図3)。

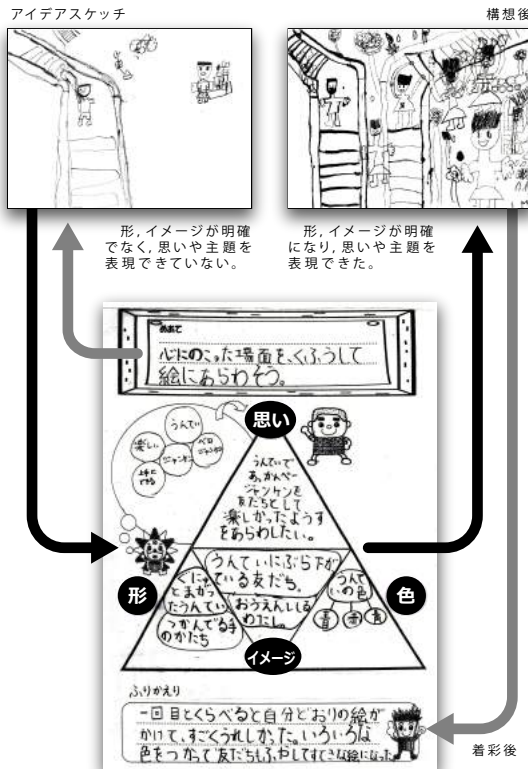
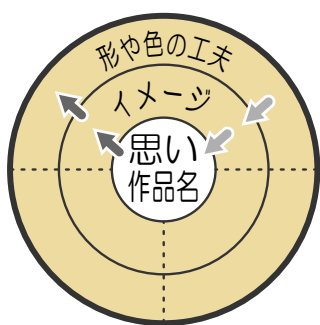


図3 トライアングルチャートの活用例

イ 「ダーツ図」 (主に表現活動用)



思いや主題, 作品名を基に, 工夫する部分ごとに円を分割しイメージ, 形や色, 材料や表現方法を考えさせ

表し方の工夫を明確化できるため, 発想や構想の活動に適している。本題材では児童の意図によりトライアングルチャートと選択し活用できるようにしている。また, ダーツ図は, アイデアスケッチを行わない粘土等を扱う題材においても思考を整理させやすい(写真2)。



写真2 アイデアスケッチを行わない題材でのダーツ図の活用例

7 【共通事項】の指導上の留意点

【共通事項】で示している内容を重視するためには, 児童生徒が自分のイメージと形や色の感じなどとの関係を考えられる指導の工夫が必要である。ただし, 特定の図像や情報を与え, それに児童生徒を添わせるように指導するものではなく, 児童生徒が活動の中で自分のイメージに気付いて, 活動の展開を図れるようにすることが重要である。指導例のように, 児童生徒が自分の思ったことをかきとめたり, 友人と語り合ったりするなどの場を設けることが考えられる。また, 教師は活動しながら刻々と変容する児童生徒の姿に共感し, 寄り添いながら捉えて指導を工夫する必要がある。

本稿では, 【共通事項】を視点とし, 主に「思考ツール」を活用した指導法の工夫を紹介した。本実践のように, 指導法の工夫を行い, 児童生徒が造形的な視点を豊かにもち, 自分の中に新しい意味や価値をつくりだせる学習活動を展開することが大切である。

\*- 引用・参考文献 -\*

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』平成20年8月, 日本文教出版
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説美術編』平成20年9月, 日本文教出版
- 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】及び【中学校版】平成22年12月, 文部科学省
- 明日をたくましく生き抜く思考力・判断力・表現力を育成する授業の創造Ⅱ平成27年5月, 鹿児島市立田上小学校

(教職研修課)